この本よむぞう

水巻町図書館 子どもの本
今月のおすすめ　2021年3月号

この1年間は、学校へ行けなかったり友だちと会えなかったりして、さびしい思いをした人も多かったことでしょう。本はいつでも友だちになってくれます。せめてこのお家時間が、本との出会いにつながりますように。

「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」
キース・ネグレー作
石井睦美 訳
【光村教育図書】

ちょっとむかし、女の子はズボンをはいてはいけませんでした。これは、最初にズボンをはいた女性のひとり「メアリー・ウォーカー」のお話です。メアリーは、あたりまえと思われていることに疑問を感じる子どもでした。

「ゆかいなことばつたえあいましょうがっこう
へのへのもへじのおともだち」
宮下すずか 作　市居みか 絵
【くもん出版】

「へのへのもへじ」の７文字で顔の絵がかけますね。“つたえあいま小学校”のお友だちが、顔をかいて遊んでいますよ。「へのへのもこじ」はどんな顔になると思う？「へめへめもこひ」「るんるんしてる」…どんな顔になるのかな？

「プラスチック星にはなりたくない
地球のためにできること」
ニール・レイトン作・絵
いわじょうよしひと訳
日本語版監修　高田秀重
【ひさかたチャイルド】

ペットボトルやレジ袋があちこちに捨てられて、環境問題になっています。プラスチック製品は便利だけど、このままだと地球が大変なことになりそうなんです。生き物や自然を守るため、私たちにできることをわかりやすく教えてくれる１冊です。

「こども衛生学」
監修　宮﨑美砂子
【新星出版社】

衛生とは「生命や生活を衛ること」。新型コロナウィルス感染症が世界的に流行している今、みなさんが毎日の暮らしの中で気をつけていることは何ですか？感染症の予防法や、食べ物と健康の関係など、知っておきたい知識がつまっています。

「東北ユースオーケストラから
つながる未来
響け、希望の音」
田中宏和
【フレーベル館】

世界的な音楽家・坂本龍一さんは、東日本大震災での楽器の被災にも心を痛めました。その坂本さんが子どもたちの音楽を救うために立ち上げた「東北ユースオーケストラ」。被災地の子どもたちが悲しみや困難の中で信じ続けたのは、音楽の力のすばらしさでした。

「日本の未来を変えた男
渋沢栄一伝」
小前亮
【小峰書店】

日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一は、1840年埼玉県の農家に生まれました。幕末の混乱した時代に育った栄一は、世の中を変えたいと考えます。日本の経済の発展に人生をかけ、個人の利益より国を豊かにすることが何より重要と考えた、渋沢栄一の伝記です。